博物館・美術館の生物学
カビ・害虫対策のためのIPMの実践

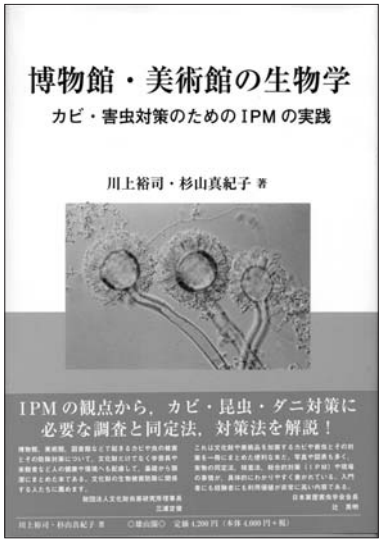
川上　裕司，杉山　真紀子　著

B5版，174頁，定価4,200円（本体4,000円＋税）
（㈱雄山閣，2009年8月31日初版発行）

室内環境の微生物，昆虫，ダニについてわかりやすくまとめられた専門書は今までなかった。本書は，副題に「カビ・害虫対策のためのIPMの実践」とある通り，博物館や美術館の環境管理にかかわる人を読者として書かれた本であるが，IPMが総合的有害生物管理（Integrated Pest Management）の略語であることを知らない人でも十分に読む価値がある内容である。一般的な生物の教科書とは全く異なる視点で書かれたものであり，大変面白い。

構成は，「第1章　カビの基礎知識と検査法」，「第2章　昆虫およびダニの基礎知識と検査法」，「第3章　IPMとは？」，「第4章　カビ・害虫対策～IPMの実践～」，「第5章　薬剤による対策」，「第6章　物理的な対策～薬剤以外の方法～」，「第7章　IPMに適した建築的対策」となっており，カビ，昆虫，ダニなどの建物に関係する有害生物の基礎知識から対策まで幅広く網羅されており，相当の力作である。

著者らが直接扱っている分野以外については，他の参考書を書き写したものではなく，多くの専門家から直接話を伺っている様子が読み取れる。たとえばフォクシング（古い書物などに現れる褐色の斑点）については，その第一人者の新井英夫博士の研究内容が正確に紹介されており優れた内容となっている。



初版本であるため，所々誤解を与えるような記述もあるが，図表や写真も多く，読み進めば，なるほど，と理解しやすい内容であり，博物館・美術館の分野に限定せず，建築分野の方々にも参考書として手元に置いて頂くと良い書物である。

（環境生物学研究所　所長　阿部恵子）